

助成番号：197

日豪渡り鳥条約にもとづく 北海道東部におけるオオジシギの分布・生息数調査

藤 卷 裕 蔵

畜産環境学科野生動物管理学研究室

1. 目 的

オオジシギは、わが国では北海道、本州本場で繁殖し、オーストラリアのヴィクトリア地方、タスマニアで非繁殖期をすごす。この種の分布域は、主として日本とオーストラリアだけで、非常に狭い。オーストラリアにおけるここ数年間の生息数調査によると、オオジシギは徐々に減少している。しかし、繁殖地である日本における調査はほとんど行われていないため、生息数の動向につい

ては不明である。

日豪渡り鳥条約により、オオジシギの生態に関する研究が、日豪両国で行われることになっている。しかし前述のようにわが国における研究は少なく、分布、生息数、生態については未知のことが多い。今回は生息数調査法を確立するための基礎研究と、道東（十勝、釧路）における分布調査を行った。

2. 方 法

生息数を調べるのに適した季節、時刻を明らかにするために、オオジシギの日周活動とその季節変化を調べた。調査地は、十勝川が利別川と合流する地点から約400 m下流の地点から下流方向へ3 kmの区間の堤防、河川敷、農耕地である。ここで4月下旬、5月中旬と下旬、6月中旬と下旬、7月下旬、8月下旬の7回の調査を行った。オオジシギは日中ばかりでなく、夜間も活動をするので、調査時間は24時間とし、各回とも各時間帯2回、計48回の記録をとった。

調査の際、オオジシギの存在を知る方法としてなき声による場合が多いので、なき声を録音して、なき声の種類を類型化し、これらの季節変化について調べた。

分布調査は、十勝と釧路の両支庁管内で、5～6月に行った。なお、今回の調査だけで全地域を調べられなかったため、分布については既存の資料も用いた。

3. 結 果

日周活動。日周活動を、観察できた活動個体数で示す。4月下旬には、活動個体数は日の出前の3時、5～10時、18～19時に多くなり、1日の活動に3つの山が見られた。5、6月にも、この活動の型は基本的には同じであるが、5月下旬と6月下旬には夜間の活動個体数が多かった。活動個体数の1日のうちでも最も多いのは6～7時の時間帯であった。

7、8月には、オオジシギは目立つ行動をあまりしなくなるので、活動個体数は4～6月に比べて急速に減少した。この点は、空中ジスプレーを行う個体の数を見ると明らかである。ジスプレー個体数は4～6月には15～26羽/3 kmであったのに、7、8月には0となった。

なき声には、ジスプレー飛行のときに出される「ジェット、ジェット」と「ズビーヤク、ズビーヤク」の2種があり、これは「さえずり(song)」に相当する。このほか「ゲツ」、「ジギー」、「グアツ」、「ジェチェェ……………」の4種類が識別でき、これらは「地鳴きcall」に相当する。調査の際、オオジシギの存在を知るのは、上のジスプレー飛行の際に出される2種類の場合が大部分であった。

分布については、十勝、釧路の両支庁管内全域を調査できなかったため、1/2,500の地形図1枚を1区画とし、各区画で観察されたり、過去に観察された記録があれば、その区画にオオジシギが生息するものとして、分布図を作成した(図1)。オオジシギは都市の中心部や住宅地など自然植生のないところや森林地帯を除くと、どの区画でも分布していた。

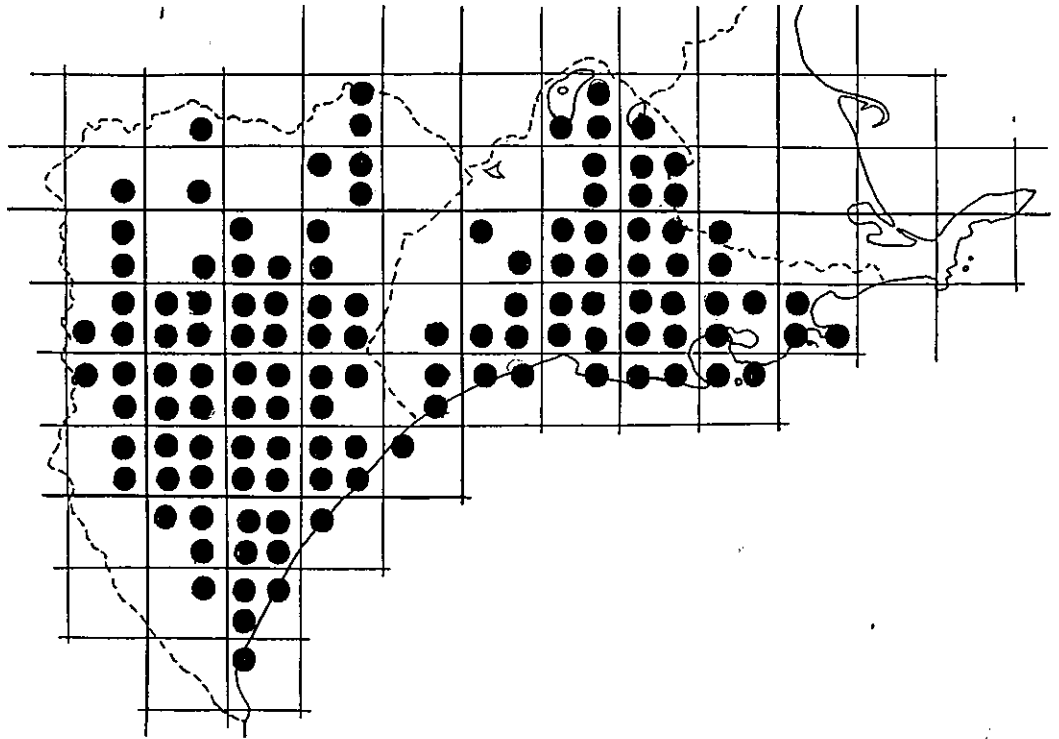


図1 十勝・釧路地方におけるオオジシギの分布

4. 考 察

鳥類の生息数を調べる場合、姿やなき声によりもっとも目立ちやすい時期、時刻に調査することが必要である。今回は、オオジシギについて、まずこのような点を明らかにした。オオジシギの存在を確認できるのは、ジスプレー飛行による場合が大部分である。この行動は4月下旬～6月下旬にかけて活発であるが、とくに5月に高い。このことから生息数調査の適期は5月いっぱいとするのが望ましい。

調査時間については、1日のうちで活動個体数が最も多い5～10時がよいが、5、10時の個体数は6～9時に比べて少なくなるので、調査時間帯は6～9時とすることが望ましい。しかしこの時間帯にあっても、個体数は6時から9時にかけて減少するので、今後いろいろな環境でも調査を行い、この減少のし方の法測性を見出し、6時以外の時間帯に得られた観察個体を6時の観察個体数に補正する方法を確立する必要がある。

シギ類は一般に湿潤な環境に生息するが、オオジシギはむしろ乾燥した環境に生息し、人間の居住地域や森林を除けば、どこでも分布しているといえる。このような分布を見る限りでは、オオジシギの生息環境が今後急速に消失するとは考えられない。しかし、環境によって生息数が異なるようなので、生息数調査法を確立するとともに、生息数の今後の動向を知り、それに対応して生息環境の保全などをはかる必要がある。